



Q アントレプレナーシップ教育を カリキュラムとしてどう定着させるか

みず たに ゆき の
水 谷 幸 乃 (文責)



A 「体験」で終わらせない本物の 探究活動へシフトする

答弁 子どもが自ら問い、挑戦し、より良いものへ

変化させ続ける探究を目指す。地域連携は双方が「WIN-WIN」となる関係が理想。

子どもたちの真剣な姿を見て大人も未来志向となり、地域の人の深い対話から、子どもたちが「やりがい」と「達成感」を持てる取り組みを展開する。

質問 教職員の異動や負担、熱量の差を乗り越え、誰が担当でもブレない可視化と、チームとして挑戦を楽しめる組織づくりをどう進めるのか。

答弁 ロードマップの明示と学園コーディネーターの活用により、優秀な教員がチームとして自信を持って挑戦できる環境を整える。

キャリア教育は教師の責務。計画はPDCAサイクルで改善されるため流動性はあるが、不変の指針として「湯沢版ロードマップ」をブランドデザインに明示する。CSを活かし、学園コーディネーター

の稼働で負担を軽減し、優秀な教員がチームで同じベクトルを向く組織をつくる。

質問 高い「自己肯定感・ウェルビーイング」の数値を、具体的にどの教科のどのような指導場面で、点数や思考力の向上に結びつけるのか。

答弁 日々の授業に「実社会と結びついた問い」を組み込み、高い自己肯定感を「自律的な学習意欲」へと昇華させる。「自信がある」とことと「主体的に学習する」間の距離を埋めるため、日々の各教科の授業に「実社会や湯沢の課題と結びついた問い」を組み込み、点数や思考力を高める指導指針や成功事例を共有する。大人に認められる経験を通じて、自信を「やればできる」という自律的な学びに結びつける。

質問 多様化する不登校に対する学校をどう「居場所」にするか、また9年間一丸となって見守るための「共

通の指針・合言葉はあるか。

答弁 通信制も含めた広い視野での居場所づくりを進め、「小さな挑戦を支える」という共通の物差しで町全体で子どもを育む。不登校は問題行動ではなく、学校システムとのミスマッチ。通信制で

学びが子も含めた居場所をつくり、保護者のウェルビーイングも大切にする。学校運営協議会でも共有した「挑戦をしていくこと、小さな挑戦を支えていくこと」という思いを共通の物差しとしていく。

学びが子も含めた居場所をつくり、保護者のウェルビーイングも大切にする。学校運営協議会でも共有した「挑戦をしていくこと、小さな挑戦を支えていくこと」という思いを共通の物差しとしていく。

キャリア教育

自分らしい未来に向けて、
学びと体験をつなげる



ウェルビーイング

心も体もいきいきと、
自分らしく学び、つながる

